

妊娠中の検査について

妊娠初期検査：妊娠12週頃

自費検査

- 淋菌検査 (¥2,000) ○ 膣内細菌・頸管細菌培養検査 (¥2,500)
- ヒトパピローマウイルス (HPV) 検査 (¥3,000) ○ 生化学検査 (¥4,000)
- 甲状腺機能検査 (¥3,000)

公費負担（無料）検査

- 貧血検査 ○ 梅毒検査 ○ B型肝炎ウイルス検査 ○ HIV ○ 風疹 ○ 血液型・不規則抗体検査
- 血糖（グルコース）検査 ○ C型肝炎ウイルス検査 ○ クラミジア検査 ○ 子宮頸癌（細胞診）検査
- 成人T細胞白血病検査

クラミジア、膣内細菌検査、子宮頸癌検査は内診で行う検査です

希望者のみの検査

- トキソプラズマ抗体検査 (¥3,000)
- ムンプスウイルス（おたふく）検査 (¥2,000)
- サイトメガロウイルス検査 (¥3,000)

妊娠後期検査

妊娠30週頃・・・○貧血検査（公費） ○血糖検査（公費）

妊娠32～34週頃・・・○細菌（GBS）検査（公費）

細菌（GBS）検査は内診で行う検査です

妊娠36週以降の検査

- 貧血検査（公費）
- NST (¥2,000)

※ 公費負担検査について、都道府県・市町村により異なります。また制度の変更により変わることがあります。

※ 妊娠中の検査は健康保険が適用となりません。費用が多額となりますがご了承くださいませ。

※ 検査内容の説明については、別紙またはマザリー教本P14～15をご参照ください。

妊娠中から授乳期間の栄養補助のためのサプリメントについて

妊娠中からの栄養が胎児の発達、産後の母乳栄養へ影響するといわれており、妊娠期から授乳期まで、タンパク質、鉄・亜鉛・ビタミンB群、ビタミンA、葉酸・ビタミンC、ビタミンD等を補う必要があります。特に「隠れ貧血」といわれる鉄（フェリチン）不足は、分娩時の大量出血の原因となるだけでなく、抑うつ症状（精神的落ち込み）が出る要因にもなるといわれています。近年、分娩時の多量の出血や、精神的なサポートが必要な方が増加してきています。このことから、予防的に医療用サプリの服用についてもご相談に応じています。

自分自身の健康はもちろん、これから始まる子育てや赤ちゃんの栄養について考えていきましょう。



検査の説明（詳細は医師にお尋ねください）

別紙

検査には、毎回実施する項目、健診時期（初期・中期・後期）により実施する項目があります。

血液検査、内診による検査があります。また公費負担、私費での検査、希望により実施する検査があります。

検査項目	説明
尿、浮腫	腎臓機能のスクリーニング検査
血圧	血圧異常のスクリーニング検査
体重測定	急激な体重増加、体重増加不良による母体と胎児への異常を予防するため
超音波エコー	胎児の発育、羊水量、胎盤の位置や血流等の検査 中期には精密超音波検査をします
血算、生化学	貧血や血小板減少などが起きていないか確認のため
血糖（グルコース）	妊娠糖尿病を発見するためのスクリーニング検査 高血糖の場合、更に糖負荷（75 g OGTT）検査をする
血液型・不規則抗体	もしもの場合の輸血に備えるため適合性のチェックのため 胎児との血液型不適合が起きる可能性がないか確認のため
梅毒	母体が感染している場合、胎児に感染「先天梅毒」する可能性があり、早期発見により母体と胎児への治療のため
甲状腺機能	甲状腺機能異常による母体と胎児への影響を予防するため
H I V抗体	感染の早期発見と胎児への感染予防のため
B型肝炎ウイルス	母子感染を防ぐための検査
C型肝炎ウイルス	肝臓の炎症により機能が低下してしまう病気の原因になる
成人T細胞白血病ウイルス	陽性の場合、母乳で赤ちゃんに感染する可能性があるため、授乳方法について検討する必要がある
風疹	妊娠初期に風疹に罹患すると胎児に「先天性風疹症候群（白内障・先天性心疾患・難聴などの症状）」を引き起こす可能性がある 抗体価の低い方は、産後一か月健診時に予防接種を勧めています
クラミジア検査	切迫早産・破水の原因、赤ちゃんの結膜炎・肺炎の原因になる 陽性であれば治療して予防
子宮頸癌（細胞診）・HPV	子宮頸癌のスクリーニング検査
トキソプラズマ抗体検査	犬や猫、鳥などに寄生するトキソプラズマ原虫に初感染すると流産や早産の原因、赤ちゃんの先天異常の原因になることがある 抗体を持っているか、初感染でないか検査
淋菌	切迫早産や赤ちゃんの結膜炎の原因になるため予防するための検査
膣内細菌・頸管細菌培養	膣内の細菌繁殖は頸管炎の誘因となる。切迫早産・破水を予防するための検査
ムンプスウイルス（おたふく）	妊婦さんが感染すると重症化するので、予防接種、未感染の場合は注意が必要 抗体価の低い方は、産後に予防接種を勧めています
サイトメガロウイルス	妊娠初期に初感染した場合、胎児が「先天性サイトメガロウイルス感染症」になる可能性がある
細菌（GBS）	B群溶血性連鎖球菌は分娩時に赤ちゃんに感染すると重症化する可能性がある 陽性の場合、分娩開始時に抗生剤を投与して母子感染を予防
ノンストレステスト（NST）	胎児の心拍と子宮収縮を分娩監視装置で30分前後モニタリングして胎児の状態や胎盤機能をチェックする検査